令和4年度 小林市立三松中学校 学校関係者評価書

【4段階評価】 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る

1:改善を要する

■ 学校経営ビジョン 「一人一人を大切にする教育」を基盤とし、生徒が明るく生き生きと自己を発揮でき、「生徒が主体となる学校づくり」を推進することをとおして、自己実現と社会に貢献する生徒を育成する。

【学校教育目標を達成するための重点目標:重点目標を達成するための具体的な取組】

重点	目標達成のための手段	具体的な数値目標等	結果の考察・分析及び改善策等	(農量)	製紙者	学校関係者評価コメント
	1 基礎・基本の定着と「楽 しい・分かった・できた」 を実感させる授業づくりの 工夫・改善	 授業がよく分かる割合55% 1月実施の実力テストが全学年とも地区平均点以上 英検IBA3級合格レベル以上の割合30%以上 	○かなり ICT 活用した取り組みがなされ、生徒が意欲的に取り組む姿が多く見られるようになってきた。 ○年2回の重点支援校訪問により、一人一人の授業改善に対する意識に向上が見られた。 ○全学年が同じ問題に取り組むテスト(各教科の基本的事項に関する内容)を実施してみては? *相互参観がしやすいように「参観ウィーク」等の機会設定ができるとよい。 * C 判定の生徒への補充指導		3. 2	○ 学習意欲の向上、授業力の向上など、数字だけでは評価できないところがたくさんあると思います。先生方の日々の努力に感謝いたします。 ○ 授業中の生き生きとした生徒の表情が印象的だった。先生方の授業に対する取組や工夫など成果を感じられた。 ○ さまざまな取組の結果、生徒の学習意欲と教師の授業力が向上しているとの報告に、学力向上に対する学校の積極的な姿勢を感じます。相互参観、補充指導、授業改善チェックポイントなど、新たな改善策も出されていますので、今後の成果が楽しみです。 英検 IBA (3級合格レベル)の目標は、生徒と教師にとって良い動機づけになると思います。
確かな学力の向上	2 主体的・対話的で深い学 びの実現とICT機器 (タ ブレット等)の効果的な活 用による授業改善	授業でICT(タブレット)を活用できる教員90%以上	○必要な活動に応じて活用することができた。 ○教員への1人1台の配置もあり、授業で活用しやすくなった。 ○みんなが積極的に活用できた。 ○研修や主題研での情報交換等を通して、効果的な活用が増えたように思います。 ○昨年度に引き続き、ICTを活用しながら授業を組み立てる意識がさらに向上した。 ○タブレットPCの活用頻度は、格段に上がった。 ○各教科においてタブレットを積極的に活用して授業を行っている場面が多く見られるようになってきた。 ●まだまだ使いこなせない。 ●話し合い活動におけるICT活用には、課題がある。	3. 1	3. 7	○ 「ICT を活用できる教員 90 %」と同時に、「教科の特性に応じたタブレット端末を用いての主体的・対話的な授業づくり」に臨まれていることに敬意を表します。新しい技術や指導法への対応が大変でしょうが、よろしくお願いします。 ○ 情報モラル教育については、「~しないように」ではなく、デジタル・シティズンシップの視点での取組に期待しています。参観日での3年生の情報モラル教室は、後生の一部しか参観できませんでしたが、家庭での話合いの方法と重要なポイントが具体的に示されていて、大変参考になりました。数値で紹介された SNSによるトラブルは説得力がありました。 ○ ICT教育の重要性を先生方が十分認識されているからこその90%の活用率だと思います。 ○ この1年間でICTがすごく進んでいると思う。 ○ 1、2年生のタブレットを活用してのプレゼンがとてもごたえがあり、大変良かったです。 ○ 今年度より先生方が保有できるようになり、生徒によるパワーポイント作成など操作能力も上達したと思う。また、プレゼン(発表)も取り入れ効果的なICT活用を実践しており、更なる向上を期待したい。
	3 授業と連動した家庭学習 における課題の工夫:家庭 学習の質の向上		 ○毎週の週末課題を実施できた。 ●学校全体として方向性を明確にできず、組織的な対応を展開することができなかった。 ●家庭学習の質が低い。 ●家庭学習の習慣化がまだまだという生徒が多いように思う。タブレットが十分活用されていないように思う。 ●家庭学習において、タブレットを活用した課題にどのように取り組ませていくのか、検討していく必要がある。 *タブレットを家庭学習でも活用できるような手立てを考えていきたい。(オンラインでもオフラインでも対応できるように) *レベルに合わせた課題設定が必要ではないか。 	2. 3	2. 5	○ 受験に向けて、先生の為にも子どもの為にも面接だけでなく、学力やメンタル面をサポートしてくださる外部指導があるとびいました。クラスというより個人の学力レベルに合対する意識などとっても差があるように感じました。レベルに合わせた課題設定がとっても必要だと思いました。 ○ 家庭での学習の取組は保護者や生徒の考え方にばらつきなり、個別対応は先生方の手間や負担となり解決方法も問題となり、個別対応は先生方の手間や負担となり解決方法も問題となりなる。 ○ 自宅にタブレットを持ち帰って、家庭学習するとき扱いたいところがわからないのでは。慣れたら大丈夫だと思います。 ○ なかなか家庭学習までコントロールらいたいところがわからないの家庭学習までコントロールところで文書は悩ましい問題です。自己評価にも厳しいところだと思いますが、「レベルに合わせた課題設定」や「与えられる課題から自らの課題へ」とのキーワードもあり、ある程度の方向性が感りますが、「レベルに合わせた課題設定」や「与えられる課題から自らの課題へ」とのキーワードもあり、まずは一歩踏み自らの課題へ」とのお方にが難しい項目ですが、まずは一歩踏みによう。
	4 特別活動を要としつつ各 教科等の特質に応多様なヤ リア発達を促し、多もるキャ リア教育の充実	・ 「学び態度」70%以上	○職場体験学習に積極的に取り組んだ。 ○地域人材を活用し授業が各学年とも実施されていた。 ○人材活用については、計画的かつ効果的な活用が図れた。 ○農業体験、13歳のハローワークなど、外部の地域人材をたくさん活用して、生徒たちに多くの学びの場を与えることができている。			○ キャリア教育の職場体験学習では、地域の職業のみならず人や地域を知る機会となっている。少子高齢化による地域課題や地域づくりを、地域と学校が協働し生徒の学びを深める取組もお願いしたい。 ○ 農業体験や神楽、オンラインでの交流学習など、さまざまな活動を見せていただき、三松中は優れた取組をしていると思いま

	4 特別活動を要としつつ各 教科等の特質に応じてキャリア発達を促し、多様な気付きや発見を得させるキャリア教育の充実		○各学年において総合的な学習の時間を中心に、地域人材等の活用や地域との連携による学習が展開できている。 ●キャリアパスポートの有効活用方法が見いだせない。 *キャリアパスポートに関しては、定期的に書いて記録を残すだけにならないよう、書かせた後の指導にも活用できるようにしていく必要がある。	3. 0	3. 4	す。特に、参観日での「職場体験」と「13 歳のハローワーク」の発表会は、「生徒自身の振返り」と「保護者との活動の共有」という点で、参考になりました。活動自体を目的とするのではなく、活動をきっかけに、生徒と学校、保護者と地域の成長や変化に繋げることが大切だと考えます。「キャリアパスポート」は、その一助になることでしょう。 13 歳のハローワーク、各班に分かれ、タブレットを使い、とても分かりやすい授業でした。コロナ禍で受け入れてくれた企業にも感謝です!! 学び態度の向上はすばらしいと思います。
	1 自己存在感や充実感を得られる「居場所づくり」と生徒一人一人が活躍し、互いに認め合い、高め合える「絆づくり」の推進	 Q-U検査における学級満足度70%以上 新規の不登校0 いじめの解消率100% 	○職員全体(学年)で共通理解を図り、保護者と連携し、指導を行った。 ○生徒総会や体育大会など、生徒が主体的に企画・立案・実行する場面が設定され、生徒一人一人の活躍場面が増えている。そのことにより、全体として集団力の向上へとつながり、学校の活性化が図られている。 ○ QU テスト結果を細かく分析し、具体的な取組を展開したとにより、よりよい学年・学級経営につながっている。(学級生活満足度 第1回63% ⇒ 第2回70%) ○ Q-U の活用や研修も効果的だったし、いじめに対する指導や不登校に対する手立ても手厚かったと思う。 ○ 夏休みの研修を受けて、取り組みができていたのではないか。 ○ すべてのクラスがより良い方向に進んだ。 ○ どの学級も、第2回の結果が上がっていました。QU 研修を生かした個別の対応ができていたのではないでしょうか。 ○ 文の学級も、第2回の結果が上がってはないでしまうか。 ○ 文の学級も、第2回の結果が上がってはないでしまうか。 ○ 文を生かした個別の対応ができていたのではないでしまうか。 ○ 文を生かした個別への対応を行った。 ○ QU 分析を行い、意識して個別への対応を行った。 ○ QU 分析を行い、意識とよれており、学年職員でその後どうだったか、ゆっくり検証できる時間がとれないのでは。検査結果を十分に活用できていると思うが、学年職員でその後どうだったか、ゆっと時間がとれないのではと思う。	3. 3	3. 6	 ○ 体育大会、文化発表会など、生徒ひとりひとりがイキイキと活動していたのがとても印象的でした。 ○ QU 検査で学級満足度が向上していることや不登校生徒への対応についての説明を聞き、先生方の熱心な取組に感謝しています。コロナ禍で集団づくりが難しいことも多々あるでしょうが、「生徒が主体となる学校づくり」をよろしくお願いします。 □ コロナでの規制も、最近は少しずつ緩和され、集団行動が出来て良い方向に進んでいる。 ○ 生徒さんたちの主体性を重視した取組はすばらしいです。 ○ 学校に行きたくても行けないヤングケアラーの生徒はいないと報告があり、安堵した。始業時間に遅れても、登校しやすい環境づくりができており、不登校の生徒が家庭や社会から孤立しないよう心に寄り添い、柔軟な対応に努めている。
成	2 ベクトルを合わせた積極 的な生徒指導の充実により 「規律と礼儀」を重んじた 学校づくりの推進:「凡事 徹底」	・職員の自己評価(4段階)で、3. 0以上	○日常的な意識付けにより規範意識や礼儀作法に向上が見られ、学校全体に規律正しく落ち着いた雰囲気が醸成されている。●生徒の主体的な取組を増やすべき。*規律を守ることと個に応じた指導のバランスを保てるような、新しい指導のあり方を今後検討していきたい。	3. 0	3. 2	○ 先生方の自己評価が全体的に上がっており嬉しく思う。 ○ 出勤途中、校門でのあいさつの風景をよく見ています。丁寧にお辞儀をしている生徒が多いですね。校長先生から「語先後礼」のお話を聞きました。あいさつはコミュニケーションの第一歩、あいさつから生まれる効果もたくさんあることでしょう。
	3 考え議論する道徳(道徳 科)を核さする道徳教育の 充実と行事や体験活動を通 じた道徳的実践力の育成	・ 職員の自己評価(4段階)で、3.0 以上	○学年職員で道徳の授業を実践できた。 ○指導書通りではなく、どのような問いなら意見が出やすいかいなど、授業者同士で相談しながら授業づくりをしています。 ○体験活動との関連を意識して、道徳の授業が実践できている。 ○各学年において「道徳科」の授業が確実に実施されており、クラブレットを活用した主体的な取組も見られるようになってきている。 ・様々な価値観に触れさせ、考え議論する道徳の授業を展開するためには、学担だけでなく、全職員での指導が望ましいと思う。	3. 0	3. 6	○ 「道徳ができれば一人前」と、昔、先輩の教師から言われたことがあります。三松中では、「授業実践が確実に行われている」とのことで、とても素明らしいと思います。加えて、全職員導する「ローション期待しているとのこと。生徒理解に大いに役立つものと期待しています。 ○ 効果的な道徳の授業となるよう、先生方の工夫が見られる。
	4 心身に健康をもたらす読書活動・図書館活用の推進	・ 読書の一人平均12冊以上の割合60%	○読解力の向上や、情緒面の発達を促すためにも、読書に親しませる取組は重要だと考える。 ○図書祭りを実施できた。 ○読書の習慣化が図れ、親しむ生徒は多い。 ●本の選定については、定期的な助言等が必要かもしれない。 *学校全体としてさらに図書館活用の推進を図る必要がある。	2. 5	3. 3	○ 小学生から定期的な保護者による読み聞かせも継続されており、生徒の精神的安定が図れていると思う。 ○ 読書に関し今後電子書籍の普及など図書館離れも想定される。 ○ 「読書の一人平均12冊以上」の結果が、昨年度より低くなっています。しかし、「読み聞かせ」に真剣に耳を傾けている様子から、本に親しんでいる生徒が多いのが分かります。図書館活用のアイデアも生まれているようですので、これからの伸びに期待しています。

	5 道徳の時間や人権教育を 通じた「いのちを大切にす る教育」の推進	・ 年間における取組を2回以上	○全校で取り組んだ。 ○ SOS の出し方教育を実施することができた。また、相談窓口の周知を行うことができた。	3. 1	3. 3	○ SOSの出し方教育ができたのはとても良かった。大人になっても必要だと思います。 ○ STT (ソーシャルスキルトレーニング) は、SOS発信に向けた学習との説明であったが、対人援助にも有用で相手の気持ちや価値観を知る訓練となり、円滑な関係構築に有益な取組のため、心の成長や変容が期待される。 ○ 「SOS の出し方教育」に、「なるほど!」と思いました。「相談してください」だけでなく、誰にどのように相談するのか、具体的な方法を身につけておくことは、命と人権を守るためには欠かせません。大変参考になりました。
健やかな体	1 運動や生活習慣への意識 向上に向けた活動の充実: 体力向上プランの実践	・ 体力テスト48項目中24項目以 上が県平均以上	○前年度の結果と比べてかなり改善が見られた。 ○昨年度から大きな進歩を遂げている。 ○体力テストにおける数値目標を達成できたことは成果である。また、昼休み時間に体を動かす生徒が多く、運動への関心は高い。	2. 9	3. 7	○ 普段から運動量も確保できており、体力向上の取組は目標達成した。 ○ 体力テストの数値目標が達成できたことは、「体力向上プラン」 の成果の一つでしょう。今後の方向性として「小中連携による体力向上への取組」とあるように、小・中の担当者による情報交換 など、できることから始めていただければと思います。
の育成	2 学校保健委員会における 学校医との連携による健康 教育の充実	· 虫歯治療率75%以上 · 肥満率10%以下	○講演会を実施できた。 ○学校保健委員会の講演会では、子どもたちにも身近に感じることができる内容であり、有意義な時間であった。 ○性教育の授業が計画的にされていた。 *長期休業を利用して治療を促すよう、養護教諭と学担、部活動顧問や保健体育部の先生方などが連携して取り組む必要がある。	2. 6	3. 2	○ 昨年度に比べると、虫歯の治療率が下がっているようです。 教師間の連携や保護者への啓発などの対策を講じられるとのこと ですので、今後の対策に期待しています。○ 虫歯治療率の達成に個別対応も必要ではないかと思う。
望ましい食習	1 マナーを高め、食の大切 さや素晴らしさを感じ、感 謝の心を育てる給食指導の 充実	・ 残食ゼロ達成日80%以上	 ○残食量は確実に減少している ○給食委員会の取組や放送の結果、残食がほとんどなくなっている。 ○欠席の多い中、かなり頑張ったといえる。 ○学年の生徒・職員の協力のもと、残食ゼロを意識した活動ができていた。 ○かなり残食はなくなってきていると思う。 ○生徒の職に対する意識の向上が見られ、残食ゼロの日が確実に増えている。 ○食育コーナーの設置や食育クイズ等も効果的であった。 ●残食0達成日が80%以上できなかった。 	3. 4	3. 7	○ 生徒の認識を高め、残食現象の取組達成となった。 ○ 給食委員会が率先して活動している様子が、自己評価の文面から伝わってきます。「残食ゼロ達成日が72% (1月末現在)」とあり、目標の80%に少しでも近づけてほしいと思います。
自慣の定着	2 「弁当の日」の充実と教育活動全体を通じた食に関する指導の推進	 自分で作った弁当を持参する生徒 50% 朝食欠食0% 	 ○弁当の日を家族と一緒に弁当の内容や食について考えることができる大切な日になっていると感じた(弁当の日)。 ○弁当の日が実施できた。生徒も頑張って作っていた。 ○食への関心や感謝の念を高めるために、こすもす科の授業を実践できた。 ○目標は達成できなかったが、保護者と一緒に作った割合を合計すると88%となっており、全体的に高い意識で取り組めたのではないかと思う。 ●自分一人ですべて作った生徒が少数だった。 ●「弁当の日」の実施にあたり、どの程度の生徒が弁当づくりに関わっているか疑問をもってしまう。 *調理実習と連動させ、自分で簡単な料理ができるようになる手立てを考えていくと良いと思う。 	2. 8	3. 3	○ 先生方が食育にも熱心に取り組まれているのがよく分かりました。食の指導は、生徒自身のことにとどまらず、命や環境、食糧の問題など、SDGs に関する世界に目を向けるきっかけになります。弁当の日や「朝食欠食0」はとても良い取組だと思います。○ 弁当の日の取組は、家庭ごとの保護者の関わり方に違いがあると推察される。食に関心を持つきっかけ作りになっていると思う。
その他	1 時間管理と計画的な業務の遂行により、効率化を図る。	・ リフレッシュデー以外の日で部活動がない日は午後5時30分までに全員退校する。	○全員かどうかは見届けていないが自分自身はできていた。 ○見通しをもって業務遂行に努めてきたが、やはり厳しかった。 ○リフレッシュデーの定時退庁は、随分と意識が高まったと感じる。 ●夕方以降でないと連絡がつかない保護者への対応が難しいと感じた。 *リフレッシュデーは定時、その他部活動のない日は5時半までには退庁する、というメリハリのある勤務をさらに意識づけしていく必要がある。 *電話対応について、欠席連絡等は安心安全メールなどで、対応できることを願います。 *リフレッシュデーにおける定時退庁の意識をさらに高めていく必要がある。(突発的、やむを得ない業務を除き残業をしない意識で過ごす)。 *電話連絡や相談対応時間は方針を広く周知する必要がある。・市教委への留守番電話設置の要望を継続したい。)	2.6	3. 2	○ 働き方改革を積極的に進めていこうという学校の取組を応援しています。昨年度も書きましたが、「子どもたちのために」という言葉は、教師にとって、ある面、魅力的な響きがします。しかし、その行動が子どもたちのためなのかどうかを、客観的、長期的に見る冷静な判断が必要でしょう。先生方が心も体も元気で学校にいることこそが「子どもたちのため」だと思います。 ○ 煩雑な業務内容に伴い定時退庁が難しい中、先生方は達成に向け効率化を図っていると思う。また、業務内容の見直しのため時間外の電話対応に留守番電話導入の必要性が高いため、検討を要望する。

	2 三松中学校部活動の方針 に基づく活動休養日の設定 を徹底する。	・ 部活動の方針に基づく計画的な練習と休養日を全部活動が行う。	 ○全部活動できちんと守れていると思う。 ○きちんと休養日を設定できた。 ○部活動の休養日設定に対する意識は向上してきている。 ●部によっては、活動時刻が守れていない現状が見え隠れしているのでは。 *今後も原則(平日1日、休日1日)の徹底に努めていく必要がある。 		3. 7	○ 10 部活動中 7 部活動が地域部活動の取組になり、先生方の休養の確保等、体制整備ができている。 ○ 部活動の計画的な練習と休養日についての考察を読み、先生方の共通理解が深まっていると感じました。時間をかけるのではなく。効率的な練習で成果を上げることが時代のすう勢になっています。地域部活動のモデル校としての取組にも期待しています。
その他	3 会議・校内研修等における時間の効率化を図る。	・ 効率的に会議・校内研修等を毎回行う。	○ペーパーレスなど新たな取組ができた。 ○30分会議の推進は大賛成です。効率よく進め、時間の確保を今後もお願いしたい。 ○基本「30分会議」は定着しつつある。また、校務用パソコンの活用によりペーパレス化が進み、業務改善へとつながっている。 ○職員会において、資料をペーパレス化したことにより、準備の時間を削減することができている。 *質疑と協議を充実させ、会議の質を高められるようにしたい。 *事前に資料の配付をし、検討事項を話し合うような会議になるとよいと思う。 *効率的な会議にするためには、企画委員会に上がってくるまでに、担当や分掌部会で充分に議論されていることが必要だと思う。		3. 2	○ PC活用により情報共有しやすく会議や研修の所要時間の時間短縮等、成果が見られた。 ○ 30 分会議、パソコン活用のペーパーレス、業務の効果が進んで良いです。大人も子どもも心に余裕を持ちましょう。 ○ 業務のスリム化により、先生方の負担が少しでも減ることを祈るばかりです。 ○ 「30 分会議」はいいですね!「検討事項を話し合うような会議に」とありますが、本当にその通りだと思います。会議が終わった後、一人ひとりがどう行動するかが明確になっていることが大切でしょう。
	4 年次有給休暇の取得率の 向上を図る。	・ 年間1人あたり5日以上	○授業のないときに迷惑をかけずに取得した。●長期休暇で振休を消化する程度の先生が多いのではないか。●計画的な取得までにはいたっていないので、それぞれが見通しをもって休暇を取得しやすい環境を整備する必要がある。	2. 5	3. 2	○ 大勢の生徒や保護者と関わり、その都度対応しなければならない状況から、業務に対する代行など対応策を講じ、年休取得の再検討も必要ではないかと考える。 ○ 休暇取得は難しい問題ですね。授業の進度や学級の状況を考えるとなかなか休めないという先生方も多いことでしょう。個人の問題から学校の体制づくりにシフトする取組が望まれます。
_	○ 本年度の学校評価では、1項目を除く項目の全てにおいて3を超える評価をいただいた。各項目で生徒の姿から成長を感じていただいていることは、大変ありがたく、全職員がしりと学校経営ビジョンを共有し、高い意識で教育活動を推進できたことの成果であると考える。しかし、職員の自己評価が低い項目や関係者評価において課題が提示されている項目が見ることから、さらなる教育活動の充実に向け、効果的な具体策の推進に努めていきたい。 ○ 次年度も引き検診、「知育・徳育・体育・食育」のペンスのとれた生徒の育成を目指していくこととし、特に「確かな学力の向上」及び「豊かな心の験成」を重点課題として、の教育目標の具現化を図っていくとともに、「働き方改革」を積極的に推進することで、生徒や教職員の生き生きとした姿があふれる三松中学校にしていきたい。また、各項目においては、以下の取組を中心に実践していきたいと考えている。 【確かな学力の向上】 * ICT機器(タブレット)の活用に係る主体的・対話的で深い学びの実現と家庭学習を含め生徒の実態に応じた個別最適化を目指した活用の推進及び「情報モラル教育」の充. 努めていきたい。また、地域と学校との連携協働によるキャリア教育のさらなる充実に努めていさたい。 【豊かな心の確成】 * 生徒がやりがいを感じ、達成感や自己肯定感を高めるための生徒主体の取組の充実を図るとともに、QU検査結果の分析を生かした組織的な実銭及び確実な見届けを推進していたい。よれ、校内外を問わず当たり前のことが当たり前にできる「凡事徹底」の一層の定着に努めていきたい。 【健やかな体の育成】 * 体がやりがいを感じ、達成感や自己肯定感を高めるための生徒主体の取組の充実を図るとともに、QU検査結果の分析を生かした組織的な実銭及び確実な見届けを推進していたい。よれ、校内外を問わず当たり前のことが当たり前にできる「凡事徹底」の一層の定着に努めていきたい。 【望ましい食習慣の定着】 * 日常的な給食指導のさらなる充実に努め、マナーの向上や食に対する関心を高めるとともに、弁当の日の取組を中心に家庭との連携を図った食育の充実を図ることにより、S。の視点から「食」の問題に主体的に向き合える生徒の育成に努めていきたい。 【その他・働き方改革】 * 時間管理と見通しをもった業務遂行を図り、時間外勤務削減に努めるとともに、会議のスリム化を図り、時間の効率化に努めていきない。また、地域部活動推進モデル校とし教委との連携を図りながら活動のさらなる推進に努めていきたい。					